

2019年度 決算説明資料

2020年5月14日
日本テレビホールディングス株式会社

本資料の内容には、将来に対する見通しが含まれています。
しかし、実際の業績は、様々な状況変化や要因により、これらの見通しと大きく異なる結果となり得ることがあり、何らの保証やコミットメントを与えるものではありません。ご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

2019年度の概要

視聴率状況と編成方針

2019年度決算について

2020年度の見通し

2019年度の概要

- 2019年度の連結売上高は、日本テレビの放送収入が減少したものの、放送外事業収入の増加、HJホールディングスや連結子会社化したPLAYの売上増等により増収。
- 利益面では、日本テレビの放送外事業収支増、HJホールディングスの増益があったものの、日本テレビ、BS日本の放送事業収支減、減価償却費増の他、ティップネスの減益の影響等があり、営業利益、経常利益、当期純利益ともに減益。

2019年度の概要

視聴率状況と編成方針

2019年度決算について

2020年度の見通し

視聴率トピックス

Point

1

2019年度：個人視聴率3冠獲得！（7年連続）

ノンプライム・プラチナゾーンも個人1位→6年連続の個人5冠
世帯視聴率でも3冠（6年連続）

週間個人3冠→52週中42週／月間個人3冠→12か月中11か月

日本テレビ系列26地区中、21地区で3冠（世帯）獲得

Point

2

特にクライアントニーズの高い若年層で圧倒的3冠獲得！

コアターゲット【男女13-49歳】で3冠獲得！（8年連続）

C・T・F1・F2・M1・M2で圧倒的3冠！

Point

3

2020年「年間」でも、個人視聴率3冠推移！

特に4月以降、在宅率上昇に伴い、視聴率は前年比大幅アップ°

2019年度「個人」視聴率

2019/04/01(月)～2020/03/29(日)

	NTV	EX	TBS	TX	CX	PUT
全 日	① 4.4	② 4.1	③ 3.2	⑤ 1.4	④ 3.1	22.4
6時～24時	+0.1	+0.2	±0.0	±0.0	+0.1	+0.1
プライム	① 6.8	② 6.3	③ 5.3	⑤ 3.1	④ 4.8	35.0
19時～23時	▲0.2	+0.4	▲0.3	▲0.2	+0.1	▲0.2
ゴールデン	① 7.2	② 6.2	③ 5.3	⑤ 3.4	④ 5.0	37.0
19時～22時	▲0.1	+0.3	▲0.4	▲0.2	+0.1	▲0.2
ノンプライム	① 3.7	② 3.4	③ 2.6	⑤ 0.9	③ 2.6	18.8
全日－プライム	+0.2	±0.0	+0.1	±0.0	±0.0	+0.2
プラチナ	① 3.4	② 2.7	③ 2.2	⑤ 1.2	④ 1.9	14.5
23時～25時	±0.0	±0.0	▲0.1	±0.0	+0.1	▲0.4

左からデジタルチャンネル順／個人視聴率（関東地区）ビデオリサーチ調べ／下段は前年度との差・比較期間2018/04/02(月)～2019/03/31(日)

- ☑ 7年連続の個人3冠獲得、個人5冠は6年連続
- ☑ 特に全日は前年比アップ、2016年水準まで回復

2019年度「世帯」視聴率

2019/04/01(月)～2020/03/29(日)

	NTV	EX	TBS	TX	CX	HUT
全 日	① 7.9	② 7.7	③ 6.0	⑤ 2.6	④ 5.7	40.1
6時～24時	+0.1	±0.0	▲0.2	▲0.1	±0.0	▲0.3
プライム	① 11.2	② 11.0	③ 9.1	⑤ 5.5	④ 8.0	56.8
19時～23時	▲0.3	+0.4	▲0.8	▲0.4	+0.1	▲0.7
ゴールデン	① 11.6	② 10.8	③ 9.1	⑤ 6.0	④ 8.3	59.4
19時～22時	▲0.3	+0.3	▲0.9	▲0.3	+0.2	▲0.7
ノンプライム	① 7.0	② 6.7	③ 5.1	⑤ 1.7	③ 5.1	35.3
全日－プライム	+0.2	▲0.2	▲0.1	▲0.1	±0.0	▲0.2
プラチナ	① 6.4	② 5.2	③ 4.2	⑤ 2.4	④ 3.7	26.9
23時～25時	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲1.3

左からデジタルチャンネル順／世帯視聴率（関東地区）ビデオリサーチ調べ／下段は前年度との差・比較期間2018/04/02(月)～2019/03/31(日)

☑6年連続の世帯3冠獲得

☑評価指標は世帯視聴率→個人視聴率に移行しており、あくまで参考データ

2019年度「コアターゲット」視聴率

2019/04/01(月)～2020/03/29(日)

	NTV	EX	TBS	TX	CX	PUT
全 日	① 3.8	③ 1.8	④ 1.7	⑤ 0.7	② 2.5	12.8
6時～24時	+0.1	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0
プライム	① 6.6	④ 3.3	③ 3.7	⑤ 1.7	② 4.1	22.7
19時～23時	▲0.1	▲0.1	+0.1	▲0.1	+0.1	▲0.3
ゴールデン	① 6.7	④ 3.1	③ 3.5	⑤ 1.8	② 4.3	23.1
19時～22時	▲0.1	▲0.3	+0.2	▲0.1	+0.2	▲0.1
ノンプライム	① 3.1	③ 1.3	④ 1.1	⑤ 0.4	② 2.1	10.0
全日－プライム	+0.3	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0
プラチナ	① 3.8	② 2.5	④ 1.8	⑤ 0.8	③ 2.0	12.7
23時～25時	+0.1	▲0.1	▲0.3	±0.0	▲0.1	▲0.7

左からデジタルチャンネル順／コアターゲット視聴率（関東地区）ビデオリサーチ調べ／下段は前年度との差・比較期間2018/04/02(月)～2019/03/31(日)

- ☑ コアターゲットは2位以下を大きく引き離し3冠獲得、3冠は8年連続
- ☑ 「男女13歳-49歳」を指す日本テレビオリジナル指標で、
「クライアントニーズ」が高い就業就学者にどれだけ支持されているかを示す

2019年度 個人視聴率「順位一覧」

注：ビデオリサーチ調べ

	個人	ターゲット	C	T	M1	M2	M3	M3 前半	M3 後半	F1	F2	F3	F3 前半	F3 後半
		男女 13-49	男女 4-12	男女 13-19	男 20-34	男 35-49	男 50~	男 50-64	男 65~	女 20-34	女 35-49	女 50~	女 50-64	女 65~
全日	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	3	3冠	3	3冠	3冠	2	3冠	3
プライム	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	2	3冠	4	3冠	3冠	3	3冠	3
ゴールデン	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	3冠	2	3冠	4	3冠	3冠	2	3冠	3
3冠 連続	7年	8年	10年	10年	6年	10年		6年		6年	9年		6年	

- ✓ C・T・M1・M2・F1・F2で3冠、M1・F1は6年連続、F2は9年連続
- ✓ M3・F3は他局の後塵を拝すも、3層前半(50-64歳)は男女ともに3冠
- ✓ ボリュームゾーンの「65歳以上男女」を除く全ゾーンで圧倒的支持を獲得

2020年「年間」個人視聴率 ※途中段階

2019/12/30(月)～2020/05/06(水)

	NTV	EX	TBS	TX	CX	PUT
全 日	① 4.9	② 4.4	③ 3.6	⑤ 1.5	④ 3.2	24.2
6時～24時	+0.5	+0.4	+0.5	+0.1	+0.1	+1.9
プライム	① 7.3	② 6.7	③ 5.6	⑤ 3.3	④ 4.9	37.4
19時～23時	+0.4	+0.5	+0.3	+0.2	+0.1	+2.4
ゴールデン	① 7.7	② 6.4	③ 5.7	⑤ 3.7	④ 5.2	39.4
19時～22時	+0.5	+0.2	+0.3	+0.3	+0.2	+2.4
ノンプライム	① 4.3	② 3.7	③ 3.0	⑤ 1.0	③ 2.7	20.4
全日－プライム	+0.7	+0.3	+0.5	+0.1	+0.1	+1.7
プラチナ	① 3.8	② 2.9	③ 2.3	⑤ 1.2	④ 2.1	15.4
23時～25時	+0.4	+0.2	+0.1	±0.0	+0.2	+0.9

左からデジタルチャンネル順／個人視聴率（関東地区）ビデオリサーチ調べ／下段は前年との差 比較期間2018/12/31(月)～2019/12/29(日)

- ☑ 2020年も好調！GW明け段階、個人視聴率3冠（5冠）推移
- ☑ 個人以外も、コアターゲット・C・T・M1・M2・F1・F2で3冠（5冠）推移

2020年4月「月間」個人視聴率

2020/03/30(月)～2020/05/03(日)

	NTV	EX	TBS	TX	CX	PUT
全 日	① 5.5	② 4.9	③ 4.1	⑤ 1.7	④ 3.4	26.4
6時～24時	+1.4	+0.9	+0.9	+0.3	+0.5	+4.8
プライム	① 8.2	② 7.2	③ 5.9	⑤ 3.7	④ 4.9	40.7
19時～23時	+1.6	+1.2	±0.0	+0.6	+0.4	+6.1
ゴールデン	① 8.8	② 6.7	③ 6.0	⑤ 4.2	④ 5.1	43.0
19時～22時	+2.0	+0.7	+0.1	+0.7	+0.3	+6.5
ノンプライム	① 4.8	② 4.2	③ 3.6	⑤ 1.1	③ 2.9	22.4
全日－プライム	+1.3	+0.8	+1.2	+0.3	+0.4	+4.5
プラチナ	① 4.3	② 3.1	③ 2.3	⑤ 1.3	④ 2.2	16.4
23時～25時	+1.0	+0.4	±0.0	+0.1	+0.4	+2.0

左からデジタルチャンネル順／個人視聴率（関東地区）ビデオサーチ調べ／下段は前年との差 比較期間2019/04/01(月)～2019/04/28(日)

- ☑ 特に4月以降、新型コロナウイルスに伴う在宅率上昇で、視聴率大幅アップ°
全日5.5%超は2003年1月以来の高水準
- ☑ 若年層の在宅率が高く、コアターゲット歴代2位タイ、C・F1歴代1位
- ☑ 「有事に信頼される報道」「家族で楽しめる娯楽」が支持されていると分析

2020年度 編成方針

- ① 個人視聴率をベースにした「三冠制覇」
- ② 徹底した「コアターゲット戦略」
- ③ T／F1／M1中心に「次世代視聴者開拓」
- ④ 「多様性」のあるコンテンツ戦略
- ⑤ 「レギュラー番組」の更なる強化・リブランディング
- ⑥ 地上波中心に「マルチプラットフォーム戦略」推進

2020年4月改編のポイント

① GP帯の積極視聴強化

● 水曜19:00～19:56「有吉の壁」

次世代を担う若手お笑い芸人達が
有吉弘行・佐藤菜里の進行の元、
様々なジャンルの「お笑いの壁」に挑戦する
“純度100%のお笑いバラエティ”

番組発の新スターを生み出し話題を作ると共に
配信・SNS施策で若年層との接点を増やす事で、
「コアターゲット層の積極視聴」を目指す

4月 8日 (水) 第1回	個人8.5%	コア11.5%	<民放横並びトップ>
4月15日 (水) 第2回	個人7.9%	コア10.7%	<民放横並びトップ>
4月22日 (水) 第3回	個人7.6%	コア10.0%	<民放横並びトップ>
5月 6日 (水) 第4回	個人9.9%	コア13.6%	<民放横並びトップ>



- ✓ 個人・コアターゲット以外に、C・T・F1・F2・M1・M2で横並び圧倒的1位
- ✓ 久々の“純粋お笑いバラエティ”レギュラー編成に、早くも若年層の話題沸騰
コアターゲット層のさらなる積極視聴獲得に期待

2020年4月改編のポイント

② 日曜BC帯のコアターゲット戦略強化

- 7:30～10:25「シューイチ」30分枠拡大
高い家族視聴を誇る日曜の看板番組を枠拡大！
更なる新規コアターゲット層開拓を目指す。



- 10:25～11:25「ニノさん」枠移動・枠拡大
ワイドショーが並ぶ時間に、コアターゲット層特化した
二宮和也冠バラエティで、新規視聴者開拓を目指す。



- 12:45～13:15「第7キングダム」新設
「お笑い第7世代」4組による座組バラエティ。
日曜午後の新規コアターゲット層開拓を目指す。



- ✓ 3番組いずれも、目標とする「コアターゲット層開拓」で成果
- ✓ 日曜午前→午後の在宅若年層の視聴フローが見られ、さらなる流入に期待

2019年度の概要

視聴率状況と編成方針

2019年度決算について

2020年度の見通し

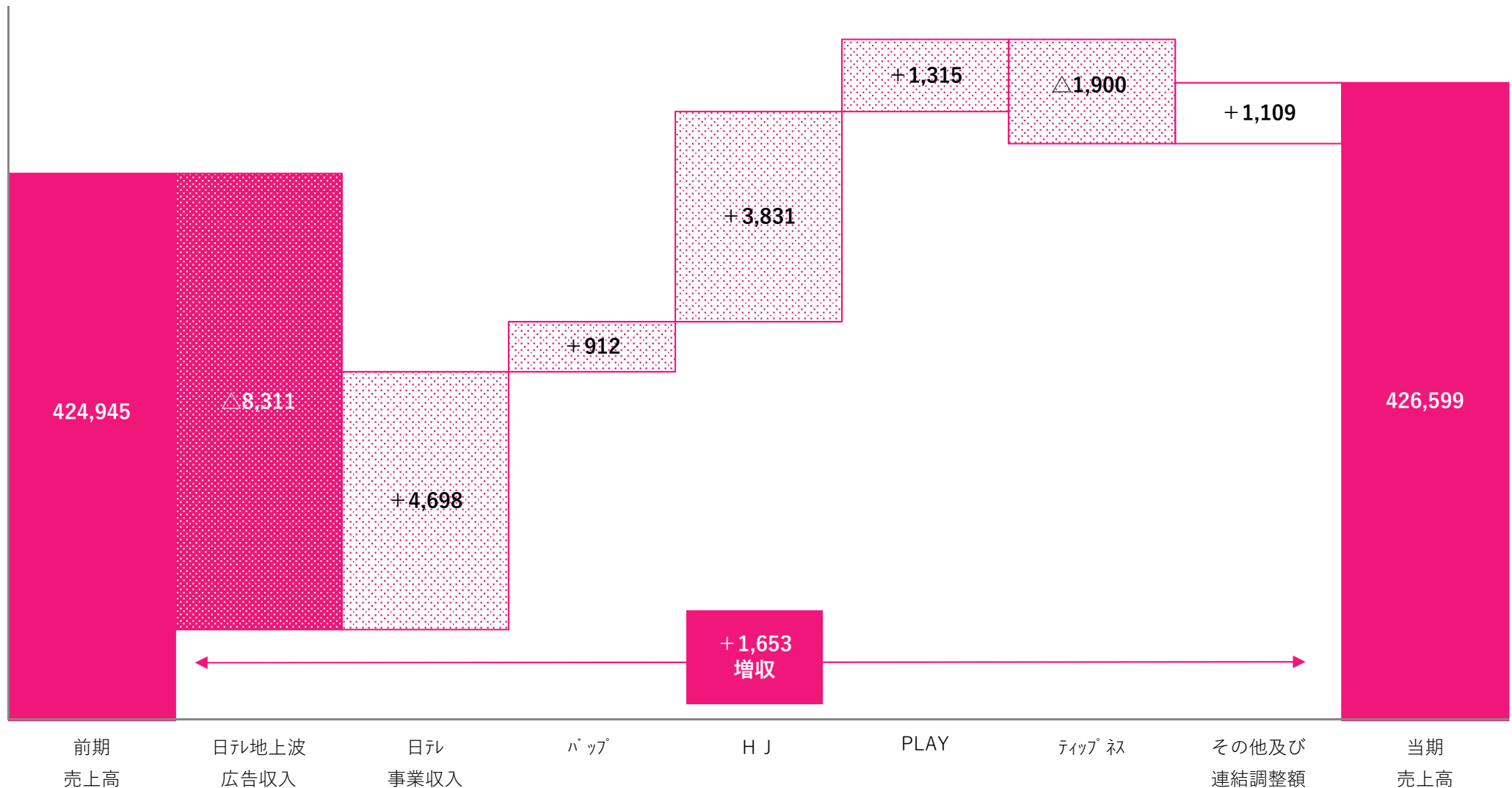
2019年度 連結決算概況

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減率 (%)
売上高	424,945	426,599	0.4
営業利益	49,749	43,111	△13.3
経常利益	57,398	49,206	△14.3
親会社株主に 帰属する当期純利益	38,739	30,555	△21.1

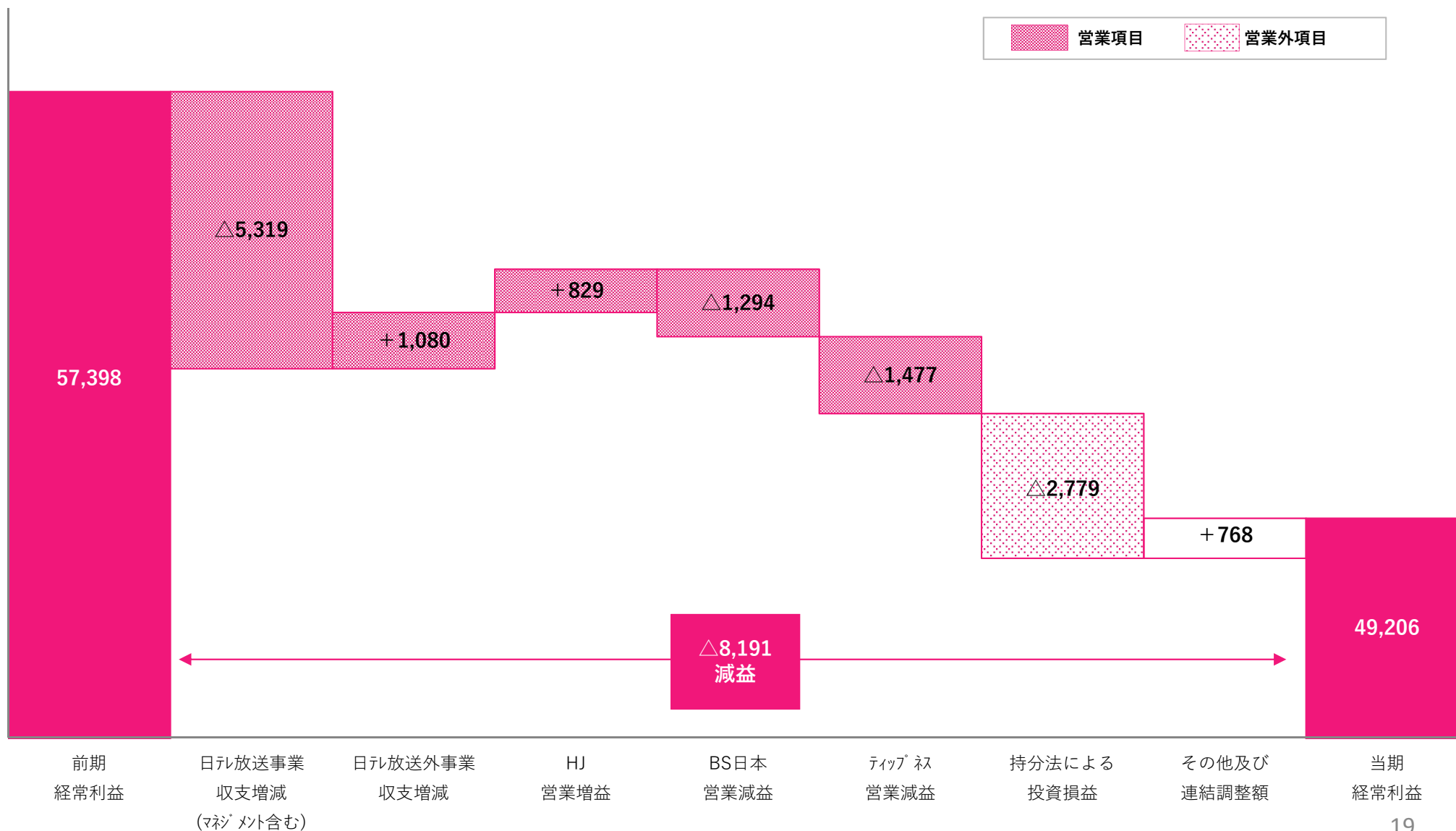
売上高の前年同期増減内容

(単位：百万円)



経常利益の前年同期増減

(単位：百万円)

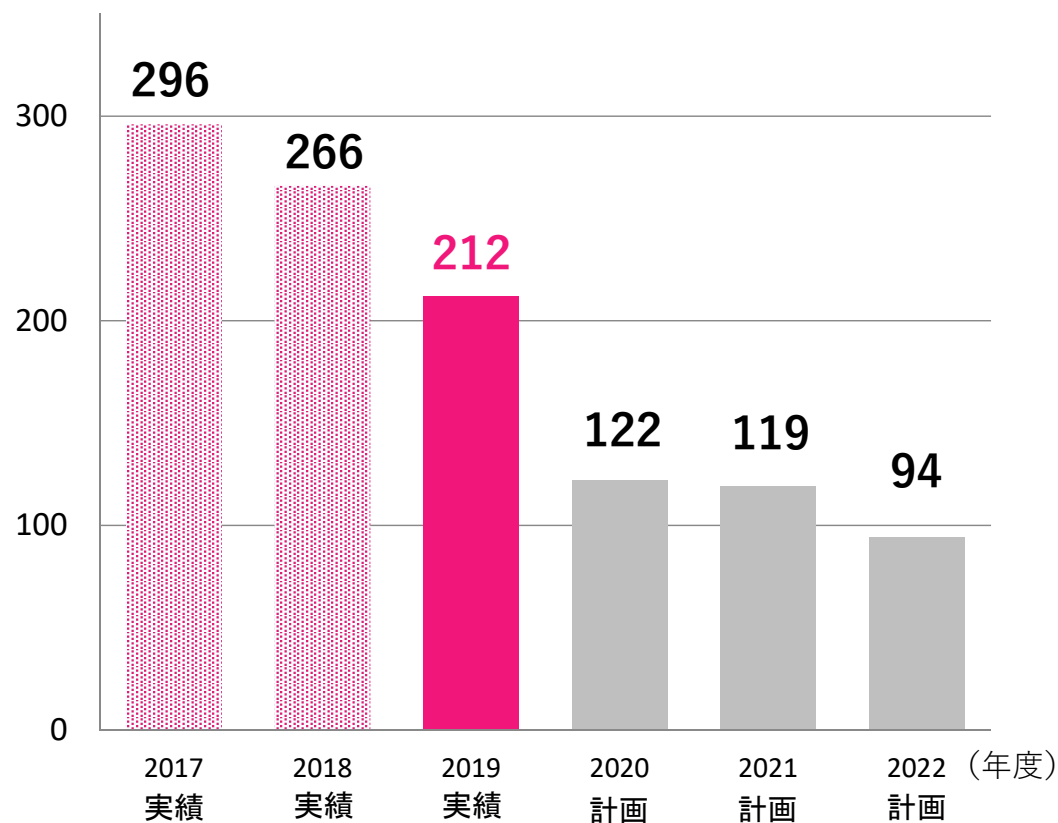


設備投資・減価償却費（連結）

2019年度 (単位：億円)	設備投資額	減価償却費
	212	191

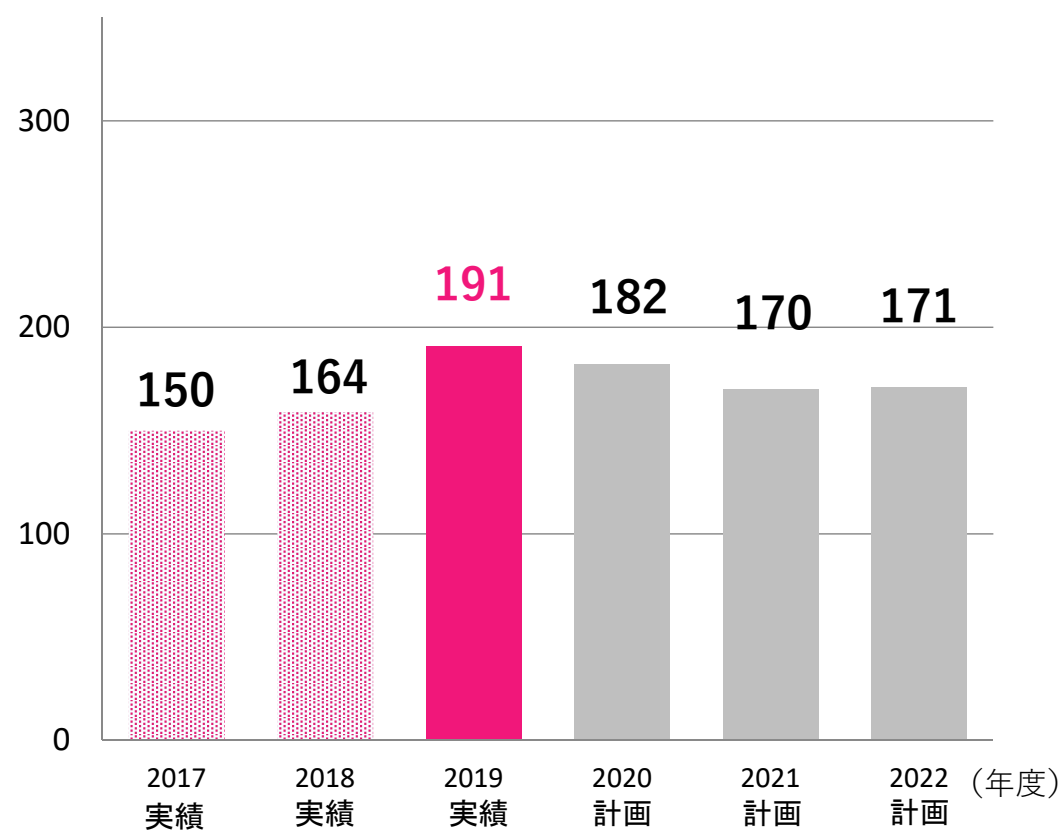
設備投資額

(億円)



減価償却費

(億円)



日本テレビ放送網 決算概況

売上高は、映画、インターネット等の放送外事業収入が増加したものの、放送事業においてテレビ広告市況の低迷が続き、主にスポット収入が減少となり減収。

利益面では、放送外事業収支の増加、番組制作費の減少等があったものの、放送収入の減少や番町スタジオに関する減価償却費の増加等により、営業利益、経常利益、当期純利益ともに減益。

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減率 (%)
売上高	311,051	307,271	△1.2
営業利益	41,236	37,340	△9.4
経常利益	46,639	41,853	△10.3
当期純利益	32,679	28,214	△13.7

日本テレビ放送網 営業収入

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減率 (%)
放送収入	256,270	247,959	△3.2
番組販売収入	11,534	11,415	△1.0
事業収入	41,146	45,844	11.4
不動産賃貸収入	2,100	2,052	△2.3
合計	311,051	307,271	△1.2

日本テレビ放送網 放送収入

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減率 (%)
放送収入	256,270	247,959	△3.2
タイム	125,850	125,706	△0.1
スポット	130,420	122,252	△6.3

日本テレビ放送網 営業費用

(単位：百万円)

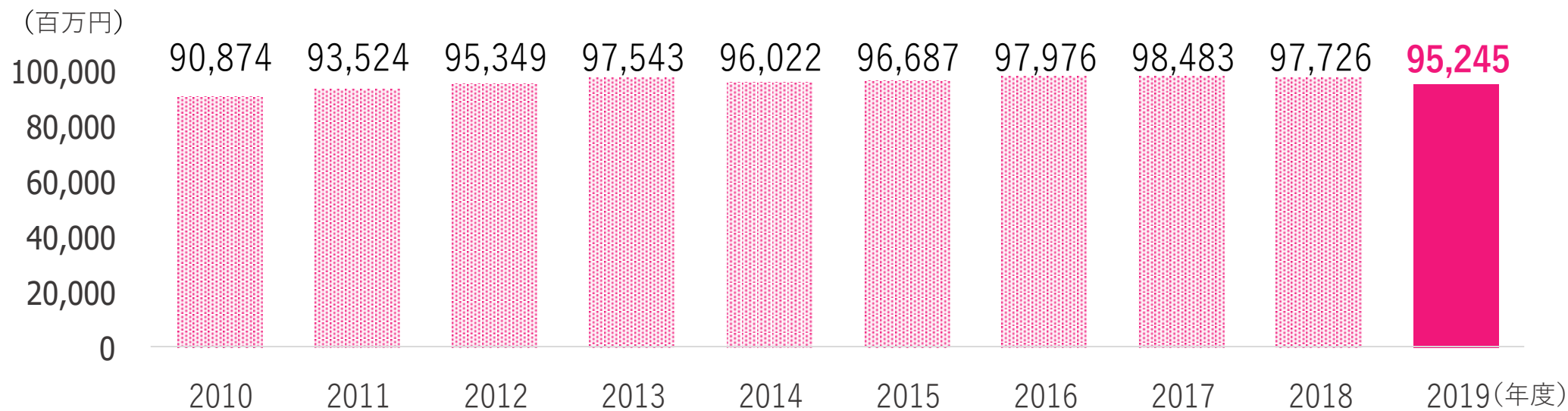
	2018年度	2019年度	増減率 (%)
番組制作費	97,726	95,245	△2.5
人件費	21,785	21,848	0.3
減価償却費	10,257	12,306	20.0
事業費	32,046	35,169	9.7
その他	107,999	105,360	△2.4
合計	269,814	269,931	0.0

日本テレビ放送網 番組制作費

(単位：百万円)

2018年度	2019年度	増減率 (%)
97,726	95,245	△2.5

番組制作費



日本テレビ放送網 事業収支

(単位：百万円)

		2018年度	2019年度			2018年度	2019年度
有料放送	収入	8,921	9,318	イベント	収入	7,285	4,322
	費用	4,779	4,893		費用	6,037	3,916
	収支	4,142	4,425		収支	1,248	406
ライツ	収入	2,140	2,217	海外ビジネス	収入	2,214	2,470
	費用	1,246	953		費用	1,445	1,128
	収支	894	1,263		収支	769	1,342
通販	収入	8,523	9,106	その他	収入	7,476	11,621
	費用	8,038	8,234		費用	6,833	9,881
	収支	485	872		収支	643	1,741
映画	収入	4,588	6,791	合計	収入	41,146	45,844
	費用	3,669	6,165		費用	32,046	35,169
	収支	919	626		収支	9,100	10,674

その他グループ会社の状況①

(単位：百万円)	BS日本	CS日本	日テレ・ テクニカル・ リソース	日テレ アックスオン	日テレ イベント	日本テレビ アート
売上高	15,247 (1.5%)	4,758 (△3.5%)	10,726 (3.8%)	22,177 (△0.7%)	3,308 (△0.5%)	7,896 (1.8%)
営業利益 又は損失 (△)	1,019 (△55.9%)	803 (3.8%)	162 (△33.4%)	795 (△17.8%)	△21 (-)	127 (△25.3%)
経常利益 又は損失 (△)	1,049 (△55.8%)	814 (3.5%)	191 (△28.7%)	812 (△17.2%)	△18 (-)	135 (△24.2%)
当期純利益 又は損失 (△)	709 (△56.8%)	563 (3.7%)	122 (△23.2%)	552 (△15.5%)	△24 (-)	94 (△16.6%)

(単位：百万円)	日本テレビ 音楽	バップ	ティップネス	日本テレビ サービス	日本テレビ ワーク24	フォアキャスト・ コミュニケーションズ
売上高	12,577 (4.1%)	13,382 (7.3%)	35,884 (△5.0%)	3,496 (9.5%)	4,537 (△0.0%)	3,323 (△19.8%)
営業利益 又は損失 (△)	1,999 (5.6%)	△1,461 (-)	847 (△63.6%)	17 (△82.4%)	207 (43.1%)	163 (△7.3%)
経常利益 又は損失 (△)	2,045 (4.8%)	△1,252 (-)	602 (△70.8%)	29 (△73.3%)	199 (708.7%)	318 (6.0%)
当期純利益 又は損失 (△)	1,330 (3.1%)	△1,237 (-)	△1,156 (-)	12 (△82.8%)	△1,452 (-)	268 (-)

注：()の数値は前期比増減率を表しています。前期もしくは当期損失計上の場合、増減率は「-」表記しています。

その他グループ会社の状況②

(単位：百万円)	日テレIT プロデュース	営放 プロデュース	日テレ7	タツノコプロ	HJホール ディングス	ACM	PLAY
売上高	4,092 (19.6%)	2,256 (12.1%)	2,956 (△5.2%)	1,623 (△18.6%)	24,394 (18.6%)	4,046 (8.7%)	4,127 (-)
営業利益 又は損失 (△)	399 (14.4%)	147 (△50.1%)	47 (10.7%)	14 (△88.2%)	417 (-)	△79 (-)	853 (-)
経常利益 又は損失 (△)	401 (14.8%)	134 (△52.7%)	51 (11.4%)	22 (△80.9%)	433 (-)	△39 (-)	853 (-)
当期純利益 又は損失 (△)	266 (14.5%)	133 (△52.5%)	34 (11.7%)	9 (△89.1%)	682 (-)	△50 (-)	485 (-)

注：()の数値は前期比増減率を表しています。前期もしくは当期損失計上の場合、増減率は「-」表記しています。
また、2019年7月に連結子会社化した(株)PLAYの増減率は「-」表記しています。

(※) 2019年7月1日付で、連結子会社のスキルアップ・ビデオテクノロジーズ(株)は非連結子会社の(株)ロジックロジックと合併いたしました。
新会社の社名を「(株)PLAY」に変更し、新たに連結の範囲に含めております。

(※) (旧)(株)日テレITプロデュースは2018年7月2日付で「(株)営放プロデュース」に商号変更を行い、
また同日付で「(株)日テレITプロデュース」(営業放送システム関連事業以外の資産及び負債を承継)を新設分割しています。

2019年度の概要

視聴率状況と編成方針

2019年度決算について

2020年度の見通し

連結業績予想及び配当予想

2021年3月期の連結業績予想及び配当予想について

- 新型コロナウイルス（COVID-19）感染被害の拡大により、国内外の経済活動の先行きに対する不透明感が急速に増大しており、景気減速懸念が高まっております。
- 当社グループにおきましても、テレビ放送事業における広告枠の販売不調やイベントの延期・中止、運営施設の休館などにより、刻々と事業環境が厳しさを増しております。
- 現時点において、新型コロナウイルス感染被害の終息時期や企業収益・個人消費への影響度合いなどを見通すことができず、その影響を合理的に算定することが困難であるため、2021年3月期の連結業績予想を未定とさせていただきます。
- 2021年3月期の配当予想につきましても未定とさせていただきます。
- 今後、算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

補足資料

セグメント別 実績

(単位：百万円)

2019年度	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結 損益計算書 計上額
	メディア・ コンテンツ事業	生活・健康 関連事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高	384,220	35,905	10,281	430,407	7,849	438,256	△11,657	426,599
セグメント利益 又は損失 (△)	40,610	△686	3,446	43,370	427	43,797	△686	43,111

事業区分	主な事業内容
メディア・コンテンツ 事業	テレビ広告枠の販売、有料放送事業、動画配信事業、映像配信ソリューション事業、映像・音楽等のロイヤリティ収入、パッケージメディア等の販売、通信販売、映画事業、イベント・美術展事業、コンテンツ制作受託、テーマパークの企画・運営
生活・健康関連事業	総合スポーツクラブ事業
不動産賃貸事業	不動産の賃貸、ビルマネジメント

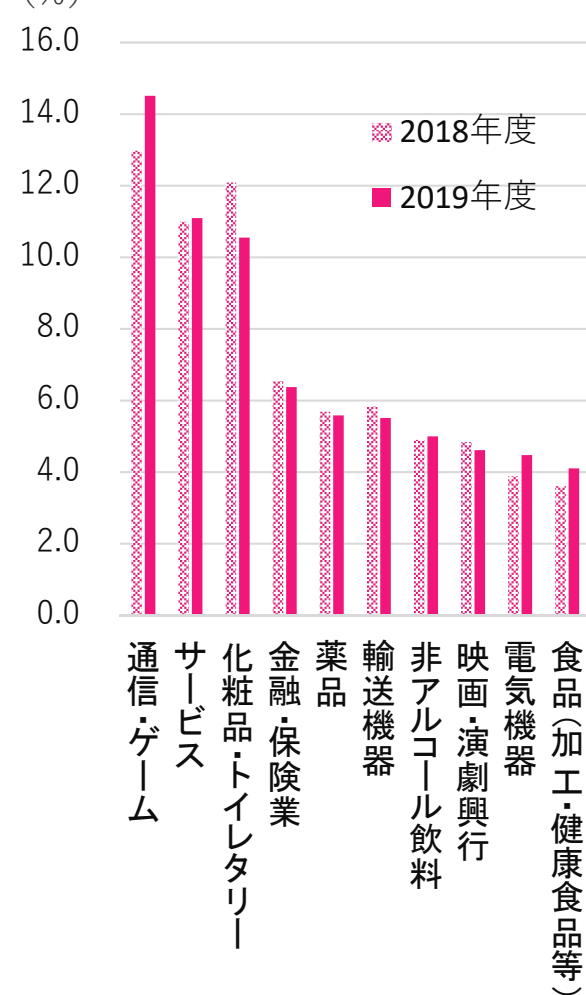
日本テレビ放送網 放送収入 前年同月比

タイム	2018年度 (%)	2019年度 (%)	スポット	2018年度 (%)	2019年度 (%)
4月	3.2	△3.2	4月	0.4	△1.9
5月	1.0	△2.1	5月	△6.6	△11.2
6月	16.0	△10.9	6月	0.1	△5.9
7月	5.3	△5.8	7月	0.0	△4.5
8月	1.4	0.9	8月	0.3	△7.7
9月	0.6	9.2	9月	△5.8	△10.5
10月	△2.5	8.7	10月	0.5	△15.7
11月	△0.1	0.2	11月	0.4	△10.2
12月	3.1	0.0	12月	△4.7	△7.2
1月	△4.1	2.9	1月	5.8	0.0
2月	△8.5	6.0	2月	6.3	△2.2
3月	9.9	△5.7	3月	△2.3	0.1

スポット業種別売上シェア

- 地上波（日本テレビ放送網） -

(%) スポット業種別シェア比較



	2018年度	シェア (%)	増減率 (%)
1	通信・ゲーム	13.0	△3.3
2	化粧品・トイレタリー	12.1	△10.3
3	サービス	11.0	27.9
4	金融・保険業	6.5	14.9
5	輸送機器	5.8	△5.8
6	薬品	5.7	△14.3
7	非アルコール飲料	4.9	△8.0
8	映画・演劇興行	4.8	△4.5
9	電気機器	3.9	△0.3
10	食品 <加工・健康食品等>	3.6	9.6

2019年度	シェア (%)	増減率 (%)
通信・ゲーム	14.5	4.8
サービス	11.1	△5.4
化粧品・トイレタリー	10.5	△18.2
金融・保険業	6.4	△8.7
薬品	5.6	△7.9
輸送機器	5.5	△11.3
非アルコール飲料	5.0	△4.4
映画・演劇興行	4.6	△10.6
電気機器	4.5	8.1
食品 <加工・健康食品等>	4.1	6.7

注：増減率は実績の前年同期比。内部管理数値です。

HJホールディングス概況

- 2019年度の有料会員純増数は計画の150%を達成
- 外出自粛の影響により、
2020年4月の新規会員登録数は計画の250%に
- 在宅支援として、
第1弾「日本テレビのドラマ・バラエティ」番組の無料配信
第2弾「キッズ・知育、料理、エクササイズ」番組の無料配信
第3弾「HUNTER×HUNTER」「ちはやふる」などアニメの無料配信
第4弾「安室奈美恵さん」関連動画の無料配信
を実施

2020年 映画事業の主なラインナップ

☆ = 日テレ主幹事 ★ = 日テレ共同幹事 ■ = Hi-AX作品

公開	作品名	配給	備考	
4/17 (金) 公開 延期	名探偵コナン 緋色の弾丸	東宝	前作は7年連続シリーズ興行記録樹立(興収93.2億)。 劇場版「名探偵コナン」第24弾！ 監督：永岡智佳 声の出演：高山みなみ 山崎和佳奈	
5/15 (金) 公開 延期	★水曜日が消えた	日活	日テレ×日活共同幹事作品 中村倫也が一人七役。 新しい才能、吉野耕平の初長編監督作品 監督・脚本・VFX：吉野耕平 出演：中村倫也	
6/5 (金) 公開 延期	☆劇場版 奥様は、取り扱い注意	東宝	2017年放送の大ヒットドラマの劇場版。 奥様は元特殊工作員、夫はエリート公安警察 敵か味方か？衝撃のドラマ最終話から新たな物語が 今、始まる！ 監督：佐藤東弥 出演：綾瀬はるか 西島秀俊ほか	

2020年 映画事業の主なラインナップ

☆ = 日テレ主幹事 ★ = 日テレ共同幹事 ■ = Hi-AX作品

公開	作品名	配給	備考	
6/26 (金) 公開 延期	それいけ！アンパンマン ふわふわフワリーと雲の国	東京 テアトル	映画アンパンマン第3 2弾 雲の国でドキドキふわふわ大冒険！ 監督：川越淳 声の出演：戸田恵子 中尾隆聖ほか ゲスト声優：深田恭子 山崎弘也（アンタッチャブル）	
7/17 (金)	☆今日から俺は!!劇場版	東宝	社会現象を巻き起こした2018年放送の大ヒットドラマの劇場版。 三橋×伊藤 伝説のあの二人が帰ってくる！ 監督：福田雄一 出演：賀来賢人 伊藤健太郎ほか	

注) 「名探偵コナン 緋色の弾丸」「水曜日が消えた」「劇場版 奥様は、取り扱い注意」
「それいけ！アンパンマン ふわふわフワリーと雲の国」は
新型コロナウイルスの影響により公開が延期となりました。

2020年～2021年 イベント事業の主なラインナップ

※新型コロナウイルスの影響で開催が延期・中止になる可能性あり

期間	イベント名	内容
<p>■東京公演：中止</p> <p>■大阪公演：8月13日(木)～18日(火) シアター・ドラマシティ</p> <p>■群馬公演：8月23日(日) 太田市民会館</p> <p>■名古屋公演：8月28日(金)～30日(日) 愛知県芸術劇場大ホール</p> <p>■富山公演：9月5日(土)～6日(日) オーバード・ホール</p>	<p>丸美屋食品ミュージカル アニー</p> 	<p>舞台は1933年のニューヨーク。世界大恐慌直後の街は、仕事も住む家もない人であふれていました。誰もが希望を失っているなか、11歳の女の子アニーだけは元気いっぱい、逆境にひるむことなく前向きに生きています。</p> <p>数々の名曲が人気で今年で35年目。難関のオーディションを突破した2人のアニーをはじめとした子役たちの素晴らしいハーモニーや、犬の演技など見所いっぱいの舞台です。</p>
<p>■東京公演： 7月31日(金)～8月10日(月・祝) 明治座</p> <p>※仙台・新潟・金沢・名古屋・高松・大阪・福岡公演あり</p>	<p>巖流島</p> 	<p>横浜流星（宮本武蔵）×伊藤健太郎（佐々木小次郎） 「世紀の対決」を描く、新アクション時代劇、誕生！</p> <p>横浜流星主演！ 伊藤健太郎共演！ 何のために戦うのか…。何のために生きるのか…。関門海峡に浮かぶ「巖流島（船島）」で繰り広げられた大勝負、その壮絶な戦いを、壮大かつ画期的なアクション時代劇として描き出します。</p> <p>主演の宮本武蔵には2019年最も注目を集め、ブレイクナンバー1の人気俳優、横浜流星、そして佐々木小次郎は近年ますます活躍の場を拡げ、若手俳優として今注目度抜群の伊藤健太郎が演じます。圧倒的迫力で魅せる大立ち回り、人間ドラマが織り成す決闘の真実。今回の舞台化に伴ない、新解釈、新設定をもとに新たに脚本を創り上げ、オリジナル作品として上演！</p>

2020年～2021年 イベント事業の主なラインナップ

※新型コロナウイルスの影響で開催が延期・中止になる可能性あり

期間	イベント名	内容
<p>8月29日(土)～12月6日(日) 寺田倉庫G1ビル (東京都品川区東品川2-6-4)</p>	<p>バンクシーって誰?展</p> 	<p>2020年8月から、TOKYOで初開催！！！！</p> <p>あの“シュレッター事件”で有名な「風船と少女」を制作した覆面アーティスト“BANKSY（バンクシー）”。謎に包まれた活動の軌跡を、プライベートコレクター秘蔵のオリジナル作品と体感型コンテンツで迎えるTOKYO初の展覧会。東京以降、大阪、名古屋、郡山巡回も開催決定！</p>
<p>11月19日(木) 11月20日(金) 東京・よみうり大手町ホール</p>	<p>久石譲 プレゼンツ ミュージック フューチャー Vol.7</p> 	<p>ニコ・ムーリーへの新作委嘱曲を日本初演！久石譲によるヴィオラのための書き下ろし曲をナディア・シロタが奏でる！</p> <p>【出演】 指揮：久石譲 ピアノ：ニコ・ムーリー ヴィオラ：ナディア・シロタ 管弦楽：Future Band</p> <p>【演奏予定曲】 久石譲：ヴィオラのための協奏曲（仮）他 ※演奏曲目は変更になる場合があります。 ※18時30分 Young Composer's Competition グランプリ作品披露</p>

2020年～2021年 イベント事業の主なラインナップ

※新型コロナウイルスの影響で開催が延期・中止になる可能性あり

期間	イベント名	内容
<p>【Vol.3】 7月11日(土) 長野・軽井沢大賀ホール 7月13日(月) 東京・紀尾井ホール</p> <p>【Vol.4】 2021年2月4日(木) 東京・紀尾井ホール 2021年2月5日(金) 東京・紀尾井ホール</p> <p>【Vol.5】 2021年7月8日(木) 東京・東京オペラシティ コンサートホール 2021年7月10日(土) 長野・軽井沢大賀ホール</p>	<p>久石譲 フューチャー・オーケストラ・ クラシックス [Vol.3][Vol.4][Vol.5]</p> 	<p>大反響のブラームス交響曲ツィクルス! 久石譲が作曲家の視点で解釈した指揮と凄腕プレイヤーによる演奏で現代の音楽として新たに蘇る!</p> <p>【Vol.3】 ----- ・ブラームス：交響曲第2番ニ長調作品73 ほか</p> <p>【Vol.4】 ----- ・ブラームス：交響曲第3番ヘ長調作品90 ほか</p> <p>【Vol.5】 ----- ・ブラームス：交響曲第4番ホ短調作品98 ほか</p> <p>※演奏曲目は変更になる場合もあります。</p> <p>【出演】 指揮：久石譲 管弦楽：Future Orchestra Classics コンサートマスター：近藤薫</p>